

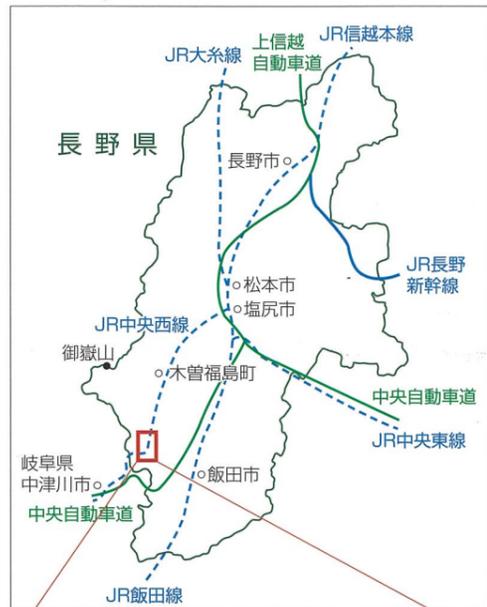
Corporate Profile

# KATSUNO WOOD

木に親しみ、木に学び、木を使い、そして木を植えて森を守ります。

## 分 株式会社 勝野木材

〒399-5301 長野県木曾郡南木曾町読書1750番地  
 TEL0264-57-2532 FAX.0264-57-3749  
 URL <http://www.katsuno-wood.com/>



# 勝野の 木曾檜

K A T S U N O W O O D

木に親しみ、木に学び、木を使い、  
 そして木を植えて森を守ります。



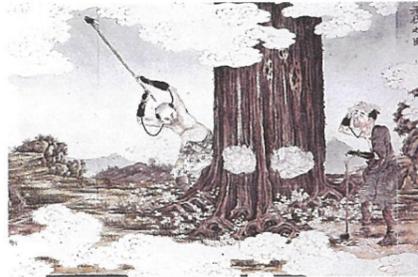
分 株式会社 勝野木材

会社案内

# 私たちの使命は木曽の森を守り続けていくことです。

## 歴史とともに歩んだ木曽檜

木曽檜は、青森のヒバ、秋田の杉と並んで日本三大美林と呼ばれています。木曽檜に目が向けられたのは室町時代に入ってからであり、本格的な開発は豊臣秀吉が始まると言われます。江戸時代には尾張藩の直轄領となり、さまざまな保護と規制が行われました。一切の立ち入りを禁止する「留山(とめやま)」、そして檜、サワラ、アスナロ、コウヤマキ、ネズコのいわゆる木曽五木の伐採が統制され、資源保護が行われたのです。また、伊勢神宮の「式年遷宮」の用材として使われるなど、木曽檜は歴史と共に歩んできました。



## 健康にも良い天然の良材

木曽檜は厳しい自然環境の中で50年、100年という長い歳月をかけてゆっくりと成長するため、1cmの幅に10年以上の年輪が詰まった、きめが細かく緻密で見事な材となります。細かい年輪が美しく、よい香りがして加工も容易で狂いも少ない、世界的にも優れた建築材です。また、強い殺菌効果や炎症を鎮める消炎作用を持つ薬用成分ヒノキチオール、樹木や植物が自らの身を守るために放出する森の芳香フィトンチッドなどを通して、私たちの心と体に多くの健康効果をもたらしてくれます。

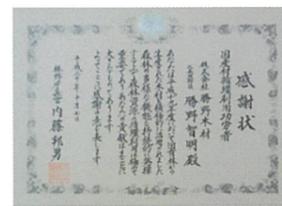
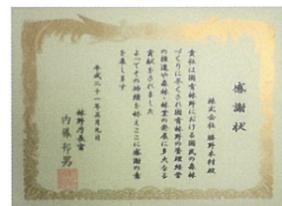
## 循環型の森林資源利用をめざす

木曽檜は、先人達のたゆみない手入れと植林によって守られ、今日まで美林を維持してきました。私たちはその恵まれた立地の中で「木は伐るだけでなく、ふたたび植えて返す」をモットーに造林にも力を入れています。山は手を入れなければ、すぐに荒れてしまいます。伐採した後は苗木を植え、間伐をして成長を促し、豊かな木曽檜の森を次の世代に引き継いでいくことが私たちの使命と考えています。また、山からの贈り物である木を大切に使うため、木取りの無駄が出ないコンピュータ制御による製材を行い、樹皮はすべて牧畜用の敷き藁代りに使って、出来た堆肥は大地に返すなど、循環型の木材利用をすすめています。

## 林野庁より、勝野木材の企業活動に対して

平成20年度「国民の森づくり推進功労者」表彰を授与されました。

このたび林野庁で創設された森林・林業、国有林野の管理、保全に貢献している企業・団体に対して各地域から選出され林野庁長官より贈られる「国民の森づくり推進功労者」表彰を中部地区の代表として授与されました。また、例年継続的に「国産材利用功労者」の感謝状も頂戴しております。



## 木曽檜の森に育つ幼木

檜は、日光が当たらないと育たない「陽樹」。間伐でできた空間から注ぐ陽光を受けて、幼木が生長する。明治末期より、植林等の政策が積極的に行われるようになった。



## 間伐が森を育てる

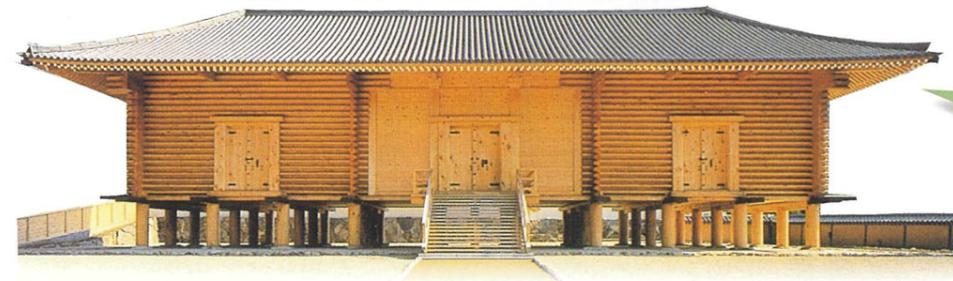
檜の森を守り育てるには、適切な間伐など人間が手入れをすることが重要。間伐をすることにより、樹冠や根が発達し、風雪や雨など災害に強く太い木に育つ。また、下草や広葉樹など多様な植生が繁茂し、水源、土砂の流出防止、CO<sub>2</sub>の削減による地球温暖化抑制などに役立っている。

200年の時を経て  
木曽檜を永遠に  
守り続けていく



利用間伐  
(植林から75年~100年)  
2世の木曽檜

植林から200年以上



## 平成20年度「国民の森づくり推進功労者」表彰(各地区)

北海道 セブンイレブン(みどりの基金)

東北 赤石川を守る会(代表者 中濱 和夫)

関東 NPO法人 富士山自然の森づくり

中部 株式会社 勝野木材

近畿中国 NPO法人 自然と緑

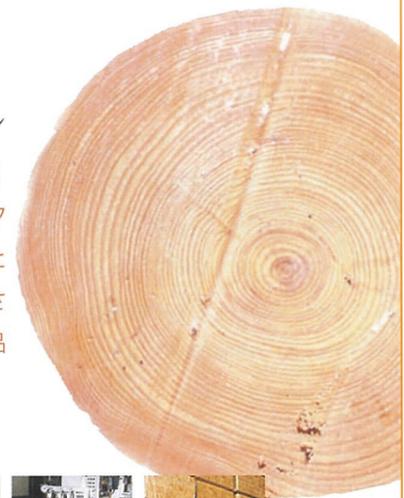
四国 嶺北材ブランド化協議会

九州 九州森林インストラクター会

# 伐採から納入までを一貫して行なうことが「総合林材業」としての強みです。



よく省力化・合理化された社内一貫生産で、品質管理とコストダウン  
 当社では、経験とカンを必要とする「立木伐採」「搬出」から正確で安定した技術の求められる「製材」「乾燥」「仕上加工」まで、社内で一貫生産体制をとっています。これは、製材ラインをコンピュータ制御化することで製材時間の短縮による効率化、従来25~30人かかった人員を2、3人にすることで人件費のコストダウンをはかり、品質の管理・維持を徹底しております。さらに、市場・問屋を通さずに直接お客様と取引をすることで中間マージン削除によるコストダウン等を可能にし、より良い品質の木曽檜を、よりお求めやすい価格でご提供することを実現しました。



①伐採 ②搬送 ③皮むき ④選木 ⑤製材 ⑥木材乾燥 ⑦加工仕上 ⑧品質管理 ⑨出荷

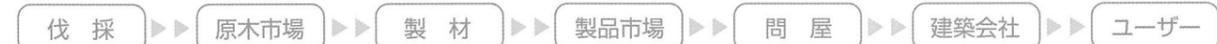
## 高品質を支える技術力

製材ラインのノーマン製材機1・2号機はコンピュータ制御で木材を無駄なくスピーディーに製材。これを乾燥機6機で含水率20%以下に乾燥し木の安定した性能を引きだし、100分の1ミリの仕上げ精度を持つαカットで仕上げます。さらに柱1本毎にグレーディングマシンで含水率・強度(ヤング係数)を測定し印字して性能を明確に表示して出荷するなど、当社ではリーズナブルでありながら木曽檜を最高の状態でお届けするための努力を惜しみません。

## 従来との工程との比較

流通ルートの見直し、商品を直接お客様のご指示の場所へ納入。問屋を通さずに中間マージンを削除することでコストダウンを可能にしました。

従来の流通ルート



勝野木材の流通ルート



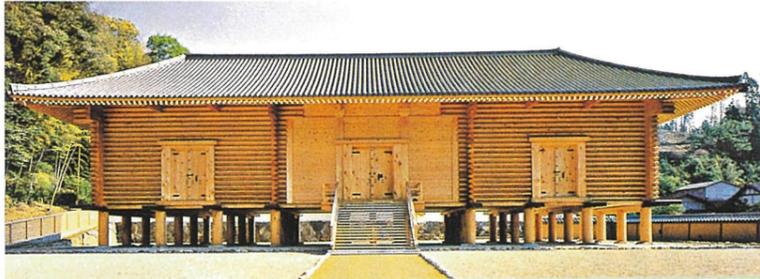
# 価値ある木曽檜材をお届けしています。

高級木造住宅の代名詞として、日本人の心をとらえ続けてきた木曽檜。耐久性、耐震性、健康効果、防腐防蟻効果にすぐれ、芳香、ぬくもり、手触りなどさまざまな快適性能を備えた木曽檜は、長い歴史の中で構造物として高い評価を受けています。檜材は、曲げ・圧縮・引っ張りのいずれの強度も、伐採後2000年までは増大しつつ、その後ゆっくり減少して2000年で元の強度に戻るといえます。私たちはこのようにすぐれた木曽檜を、自信を持ってお届けしています。

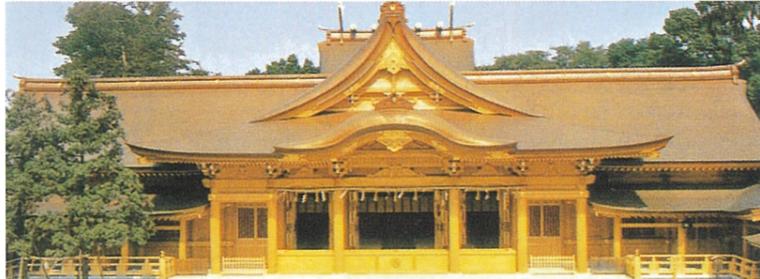
- 神社仏閣御造営用材（木曽檜）供給歴
- 1976年（昭和51）
- 天理教日野大教会神殿普請用材（滋賀県）
- 1978年（昭和53）
- 天理教教会本部東西礼拝場普請用材（奈良県天理市）
- 1983年（昭和58）
- 救世神道教祖殿普請用材（三重県津市）
- 1984年（昭和59）
- 彦根城能楽堂（滋賀県彦根市）
- 1985年（昭和60）
- 天理教河原町大教会神殿普請用材（京都府）
- 1987年（昭和62）
- 天理教東海大教会神殿普請用材（三重県）
- 1988年（昭和63）
- 安広見神社神殿普請用材（岐阜県蛭川村）
- 1989年（平成元）
- 泉福寺本堂普請用材（大分県国東町）
- 1990年（平成2）
- 天理教豊岡大教会神殿普請用材（兵庫県）
- 1991年（平成3）
- 越谷市能舞台普請用材（埼玉県越谷市）
- 1995年（平成7）
- 永福寺客殿普請用材（東京都）
- 1995年（平成7）
- 西の正倉院普請用材（宮崎県南郷村）
- 1996年（平成8）
- 寒川神社本殿・拝殿普請用材（神奈川県寒川町）
- 1999年（平成11）
- 海福山長光寺本堂普請用材（山梨県敷島町）
- 1999年（平成11）
- 正覚山天福寺本堂普請用材（岐阜県土岐市）
- 1999年（平成11）
- 虎岳山龍洞寺本堂外普請用材（岐阜県川辺町）
- 2000年（平成12）
- 神松山興福寺本堂客殿普請用材（静岡県浜松市）
- 2000年（平成12）
- 地久山天長院本堂普請用材（長野県大桑村）
- 2001年（平成13）
- 武庫山理性院本堂普請用材（兵庫県神戸市）
- 2001年（平成13）
- 龍洞山正願寺客殿普請用材（岐阜県御嵩町）
- 2001年（平成13）
- 神慈秀明会京都神殿普請用材（京都府）
- 2002年（平成14）
- 鳳凰山高龍寺客殿普請用材（山梨県武川村）
- 2002年（平成14）
- 大山社命神示教会神殿普請用材（神奈川県横浜市）
- 2006年（平成18）
- 靖国神社中門鳥居普請用材（東京都）
- 2007年（平成19）
- 大智山愚溪寺本堂普請用材（岐阜県御嵩町）
- 2008年（平成20）
- 穂高神社本殿・拝殿普請用材（長野県安曇野市）
- 2009年（平成21）
- 甘露山長松寺本堂普請用材（山梨県甲府市）
- 2009年（平成21）
- 醫王山龍角寺本堂・客殿普請用材（福島県郡山市）
- 2010年（平成22）
- 天理教甲賀大教会 神殿普請用材（滋賀県）
- 2011年（平成23）
- 神慈秀明会 東京支部 御神床廻り普請用材（東京都）
- 2012年（平成24）
- 神慈秀明会 広島支部 御神床廻り普請用材（広島県）
- 2015年（平成27）
- 神慈秀明会 呉集会所 御神床廻り普請用材（広島県）
- 2018年（平成30）
- 醫王山龍角寺 欄間用材納材（福島県郡山市）
- 2018年（平成30）
- 春日神社 手水舎普請用材（三重県桑名市）
- 2019年（令和1）
- 伊奈波神社 参集殿普請用材（岐阜県岐阜市）
- 2020年（令和2）
- 岐阜東照宮 普請用材（岐阜県岐阜市）



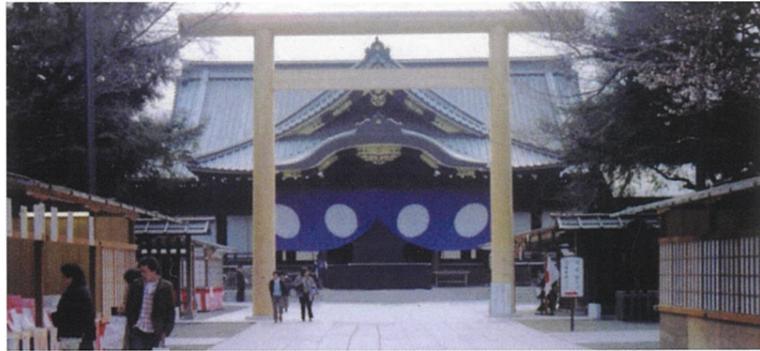
天理教教会本部（奈良県） 天理教立教147年に竣工された東西礼拝場は、総檜づくりの荘厳な建造物。 昭和59年竣工



西の正倉院（宮崎県） | 間口33m・高さ13m・奥行き9.1m。木曽天然檜2,000本使用。 平成8年5月竣工



寒川神社（神奈川県） | 古くから関八州の守り神として信仰されている相模国一宮。総檜作りで拝殿には216人が一度に着席、参拝できる席が設けられている。 平成9年10月竣工



靖国神社 中門鳥居（東京都） | 木造の鳥居としては、日本最大級の中門鳥居。 平成18年竣工

## ごあいさつ

霊峰御嶽山を望む木曽谷の厳しい気候の中で育った木曽檜は、抜群の弾力と粘りを持つ最高級建築材です。古来から檜は神社・仏閣の建築用材として用いられ「桧舞台」と言われるように、特別の構造物のための材木として珍重されてきました。人類の文化遺産を後世に伝える建築用材としては、最適と言えるでしょう。当社は創業以来、数々の素晴らしい特徴を持つ檜をいかにご要望に応じて提供できるか、この点に力を入れて業務を行ってまいりました。

私どもは伐採から、製材・乾燥まで一貫して行い、先年「背割りなしの檜柱角乾燥材」の量産化のノウハウを確立。最高級建築材である木曽檜の流通革命を実現するとともに、自然環境に配慮した循環型の木材利用を進め造林・育林事業にも力を入れて良質な建築材の安定供給を常に目指しております。今後とも勝野木材の木曽檜をご用命くださいますよう、お願い申し上げます。

株式会社勝野木材  
代表取締役社長 **勝野 智明**



## 会社概要

商号	株式会社勝野木材	資本金	3,000万円
所在地	長野県木曽郡南木曾町読書1750番地	従業員数	71名（グループ総数）令和4年8月現在
創立	昭和38年3月	事業内容	木曽檜一般建築材製造販売 木工製品製造販売・神社仏閣用材等 特殊な原木調達及び製材 造林請負・伐採搬出請負・立木購入・素材販売 分有限会社ヤマカ木材
代表者	代表取締役社長 勝野 智明	関連会社	
電話	0264-57-2532		
FAX	0264-57-3749		

## 株式会社 勝野木材 60年の歩み

昭和38年	勝野英一他9名で有限会社勝野材木店を設立 伐出請負業・立木購入素材生産販売業を開始 資本金 300万円	平成11年	株式会社谷川商事、株式会社谷川建設 納材始まる
昭和39年	円筒鋸で榎の桶材の製材を開始	平成13年	山梨県海福山長光寺本堂普請用材 納材 神奈川県 大山社の命神殿普請用材 納材
昭和40年	製材機設置 木曽檜中目材で枕木から一般建築材の製材を開始		小径木工場 増設 高温乾燥装置・修正挽き装置
昭和46年	増資 資本金600万円	平成15年	小径木工場 増設 ノーマン全自動製材装置2号機完成
昭和49年	大阪府ほんみち教神殿普請用材 納材 増資 資本金1,000万円	平成15年	3月31日第40期 決算年商約17億円を達成 資本金3,000万円 従業員数 役員含む 56名
昭和51年	天理教 日野大教会神殿普請用材 納材		有限会社勝野材木店から株式会社勝野木材に組織変更
昭和53年	天理教 本部東西礼拝場 納材 増資 資本金2,000万円		山林部を(有)ヤマカ木材として独立 (資本金500万円 従業員数25名)
昭和54年	勝野材木店木工部 新設	平成18年	東京都兩國神社中門鳥居普請用材 納材
昭和55年	(株)勝元木材 経営参加	平成19年	岐阜県大智山愚溪寺本堂普請用材 納材
昭和57年	(株)勝元木材と合併 資本金2,850万円	平成20年	長野県穂高神社本殿・拝殿普請用材 納材
昭和58年	三重県久居市 救世神道教祖殿普請用材 納材	平成21年	山梨県甘露山長松寺本堂普請用材 納材
昭和59年	滋賀県彦根城 能楽堂普請用材 納材	平成22年	長野県の県産材供給体制整備事業で大型四面鉋 ・節埋加工機他 設置 補助率1/3
昭和60年	京都 天理教河原町大教会神殿普請用材 納材	平成23年	長野県の県産材供給体制整備事業で ストックヤード建設 建物 木造集成材構造648㎡ ラックシステム（電動移動式） 倉庫舗装外工事 補助率1/2
昭和62年	三重県 天理教東海大教会神殿普請用材 納材		(3月)会社創立50周年を迎える
平成 元年	大分県国東 泉福寺本堂普請用材 納材	令和 元年	本谷新倉庫建設
平成 2年	村田木工所 経営参加 兵庫県天理教豊岡大教会普請用材 納材	令和 2年	長野県SDGs 推進企業登録
平成 3年	埼玉県越谷市 伝承の館能楽堂普請用材 納材 神奈川県 寒川神社 鳥居・手水舎・神門普請用材 納材	令和 3年	木曾町本庁舎 納材
平成 5年	宮崎県南郷村 西の正倉院普請用材 製材 神奈川県 寒川神社神殿普請用材 製材 村田木工所と合併 山口工場 新設 資本金3,000万円	令和 3年	NCルーター ShopBot導入
平成 7年	宮崎県南郷村 西の正倉院普請用材 納材	令和 4年	小径木JAS工場改修・移築工事完了（JAS認定申請中）
平成 8年	神奈川県 寒川神社神殿普請用材 納材 小径木工場 新設 ノーマン全自動製材装置1号機・修正挽き装置・乾燥装置3機・皮剥ぎ装置 等導入	令和 5年	(3月)会社創立60周年を迎える 役員3名 従業員 男30名 女12名 計42名 (有)ヤマカ木材 役員3名 従業員28名 計31名 総計73名（兼務役員2名）
平成10年	株式会社サンワホーム 納材始まる		